

女性がいぎ

NO.100

発行者 岸和田女性会議
発行日 2020年12月20日
連絡先 TEL 080-4984-5226
送付先 〒596-0042 岸和田市加守町4-6-18
岸和田市立男女共同参画センター気付
URL: <http://joseikaigi.web.fc2.com/>

2020年度 岸和田女性会議男女平等参画社会推進事業

ケアラーとして生きる女性たち

講師 田中 智子さん (佛教大学 准教授)

10月24日(土) 13:30~15:30 市立男女共同参画センター 参加者37名



コロナ禍の中、今年度初めての講座です。田中先生は17年前に3年間岸和田市に住んでおられ、障がい児学童保育を作る運動やガイドヘルパーとして活躍されていました。現在先生も子育て中で親として障がい児ケアがより自分自身の問題とつながり、この講座が実現しました。

今ケアラーという言葉がよく使われていますが、無償の介護を引き受ける人たちという意味です。2020年3月に全国初の「埼玉県ケアラー支援条例」が制定され、注目が集まる良い流れになっていると思います。

① 障がい者のケアの実際を通じて「生涯ケアラー」ということについて考える

障がい者の親には無理と矛盾が生じる。どういうことかと言うと「母親であること」を強いられ、自らの疲労感や負担感を内面化し、それに伴う様々な状況を受け入れようとする事で無理と矛盾が生じる。私の調査でも就労している障がい者で月給をもらう者は一人だけだった。後は時給で支給されている。自粛以前にすでに解雇されている人も多数。障がい者自身の収支では、月に3、4万円の赤字となり、年間50万円としても20歳~40歳までで1000万円がすべて親の負担になる。障がい者の暮らしは家族の経済力によるところが多くそれは包括されていて見えにくい。例えば年間何十枚もの衣服や下着類の購入等、親の財布自体が小さくなっていく高齢期にはいっても額は減らない傾向にある。

そして障がい者の仕事は過酷で孤独な場合が多い。本人は成人期に達しより充実した余暇を欲するようになるが、親は高齢化しガイドヘルパーの利用を余儀なくされる。また、知的障がい者の中には、同じルーティンが大切なことが多く、例えば常に水道代が5万円かかったり、同じ電気製品への固執が烈しく買いためている費用等、一人ひとりによって違いがあり公的補助にむけての社会的合意がつかれにくく家族生活は縮小せざるをえなくなる。障がい者の親として高齢化していても、精神的経済的負担を抱えたまま「生涯ケアラー」として生きる。

② ケアを引き受ける女性たちに生じる不利益について考える

障がい者家族の経済的貧困はシングルインカムで生計を支えていることによるものが大きい。以前、行った調査では全世帯の年収5分割別の統計によると、二人親家庭であっても障がい者家族ではなんと47.5%が全世帯の最貧困層に属する。「父は一人で稼ぎ母は一人でケアを引き受ける」形態となる。

障がい児の母親の就労困難を招いているのは、学童保育に入る小1の壁、放課後等デイサービスの小4の壁、そしてアフタースクールから卒業して作業所への18歳の壁と、次々とやってくる。子どもが18歳になって親は50代の自分自身のキャリアを泣く泣く手放して、仕事を辞めていく現実を多く知っている。就労していてもフルタイムで働くことはなくパートである。重度障がい者の親ほど働くことは難しくなっている。つまり稼得がないまたは少ないということは、夫婦間での決定権や破綻時に於いても女性は常に弱い立場に置かれ家庭内弱者となりえる。

ノーマライゼーション[※]の観点から考えると、社会的支援の圧倒的な不足や不整備によって母親はケア役割への専従を強いられ、生涯不就労のまま高齢になり年金額にも反映されてより貧困になる。

「諦めたことはなんですか？」と言う調査では、「趣味・友達付き合い・仕事・自身の活動・外食等」という答えがあり、親自身が生活の中で孤立化してますます二次的依存（避けられない依存者の世話をすることが自身の依存を作り出すこと）に陥る。

※障がいをもつ者ともたない者とが平等に生活する社会を実現させる考え方

③ 障がい者ケアからケア全般の広がりについて考える

子育て問題と共に考えると、はたして女性たちは安定的に働くことができているのだろうか？2012年と2017年の統計から見ても、幼い子を持つ親が働く割合は1.5倍にはなっているが安定的に子育てと就労を継続できている人は少なく、年収300万円以下の人もかなり多いという男性労働者の賃金低下によるものだ。女性の就労状況が高まっているのは、家計の足しではなく家計に直結する働きということだ。もちろん

正規職は働きやすくないので少ない。安定的に就労継続できている層と断続的に不安定就労しかできない層の二極化が進んでいる。

生涯ケアラーとして生きてきた60歳前後の親たちは今どうだろう？子どもに障がいがない人は子育ても終え自分の人生について考える時期だが、障がいの親は自分の老いとも向き合いながら、重い障がいを持つ子がいればまだまだ子育てが続く。そして同時に娘・妻・嫁としての役割を果たすべく配偶者・親・孫その他のダブル介護、トリプル介護をしている人もいる。これまで長い子育てを過ごしてきた障がいの家族の時間を変化させていかなければならない。

女性たち一般の生きにくさはまさに地続きにあり、問題の最も深刻な人に焦点をあて社会の問題として取り組むことが大切。ではどうしたら障がいの親を降ることができるのか？親が子どもを残していけるのか？障がいの親にとっての「親亡き後」問題とは、母親たちを縛ってきた社会のバインド(拘束すること)が解かれて個人ではなく社会に託す。親が信じられる社会に生きることができるようにすることが大切。

④ 社会的支援の方途について考える

親として納得のできる経験をかさねてきたのか？また親どうしの繋がりや出会いを大切にできたか？親自身の人生としてどうだったか？障がいの家族の母親はまさしく母の顔・親の顔が大きすぎる。女性たちがいろいろな顔をもって生きられるような支援が必要ではないだろうか。



親がずっと子どもを見守り続ける障がい者家族を、あたりまえの家族として生活ができるようにそして母親が多面的な人間関係の中で自分を生きられるような支援が。

また高齢者と障がい者の家族をつなぐ支援がないため、親が倒れて施設で生活すると、グループホームにいる障がい者の子どもと会うこともできなくなる様な現実もある。こんな理不尽なことがあってはならない。

ケアと無縁で生きられる人はいない。乳児や子ども時代だけでなく女性では12~3、年男性は8~9年のケア年齢がある。そして友人・近隣・職場などでみんながケアラーであるという考

えを持つ。人々をつなぐケアは意義のあること。障がいの家族という困難な場所に光を当てケアしながら輝ける社会をつくる。そのことによってすべての人が生きやすい社会にしていくことができるのでは。

今日のように市民の皆さんで取り上げてもらいたいと思う。

<まとめ>

ケアラーという言葉の意味だけでなく後ろに潜む問題も分かりやすく話してくださいました。コロナ禍の中での開催で少し戸惑いましたが、推進事業を行うことの意義を深く考えさせられた講座ではなかったでしょうか。

(竹末 美恵子)

2020年度 岸和田女性会議男女平等参画社会推進事業 パネル(紙芝居)作成!! サロン・ドゥ・GOMI部会

かしまし座出前公演で、毎回好評の演目のひとつ「このゴミどっち?~環境とゴミ分別を考える~」をよりわかりやすいものにするために、2020年度岸和田女性会議男女平等参画社会推進事業で、パネル(紙芝居)作成をすることになりました。

2019年度に「未来のために知っておきたい海とプラスチックの話」の講座を企画し、講師として大阪商業大学准教授原田貞夫さんに来ていただきました。それをきっかけに、今世界で問題になっている海洋ゴミについて、みんなで考えていけるようにと紙芝居を作成しました。

この紙芝居は、公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン)がホームページで公開している教材を基にしたものです。子どもでもわかりやすい

ように絵や図があり、今後かしまし座出前講演で「このゴミどっち?」のオフアールがあれば、今までのごみ分別体験に紙芝居を加える予定です。



パネル(紙芝居)

なぜゴミを分別しないといけないのか、プラスチックゴミが不法に捨てられて海に流れていくとどうなるのかを理解し、みんなで考えて行動してもらえきっかけになればと思っています。

老若男女誰もがができることから一歩ずつ進んでいき、次世代のために、未来に繋げていくことが今の私たちにできることではないでしょうか。

(宮路 良江)



学習会 岸和田市における外国人患者

講師：岸和田市国際親善協会副会長 塩屋 裕さん
 日時：10月2日(金) 19:00~20:45
 出席者：9名

医療通訳ボランティア活動などで多くの外国人労働者と関わっておられる塩屋裕さんに、岸和田市の実態と問題点についてお話しいただいた。

岸和田市在住の外国人は2,703人(令和元年)で、岸和田市の人口の1.4%である。全国の比率は2.1%、大阪府は2.6%なので、岸和田市は少ない方である。

外国人が少ない地域というのは、住みにくいということである。ではなぜ住みにくいのかを考えてみると、①働き口としての企業が少なく ②保証人の要らない賃貸住宅が少なく ③外国人向け行政サービスが充実していない ④日常生活で外国語が通じない ⑤医療通訳が不足 ⑥帰国・渡日児童生徒の支援体制ができていない、などが挙げられる。

1948年、日本は世界で初めて「母子手帳」を導入した。現在、日本の妊産婦・乳幼児死亡率が世界トップクラスの低さであるのは、母子手帳の導入や予防接種の広がりなどが大きく寄与したとみられている。世界に誇る母子手帳、岸和田市も9の言語に翻訳した和文併記の母子手帳を準備している。

医療通訳は、岸和田市立保健センターを経由して、岸和田市国際親善協会または個人通訳に依頼が来る。手続きの煩雑さ、緊急性、顔なじみなどの理由で、個人通訳が依頼を受けることは多い。

2019年改定施行の入国管理法による外国人労働者の増大などにより、今後ますます医療通訳の需要は増えると思われる。そこで、外国人患者の問題点を挙げてみる。

- ・医療費の未払い（保険未加入で高額、事前の説明不足等）
- ・無断キャンセル
- ・余分な現金を持っていない（前回かかった金額だけ持参。医療通訳者が立て替えることも）
- ・メモ用紙、筆記具の不携帯（診断結果や注意事項、次回予約の日時を記録できない）
- ・提出書類の不備・不携帯（通訳まかせ）
- ・異文化トラブル（衛生観念、輸血拒否など）

コミュニケーションで大切なことは、やさしい日本語でゆっくり話す、説明は短くかつ要領よく、患者への質問はやさしく一つずつ、あいまい語は避ける、などに気を配ることである。

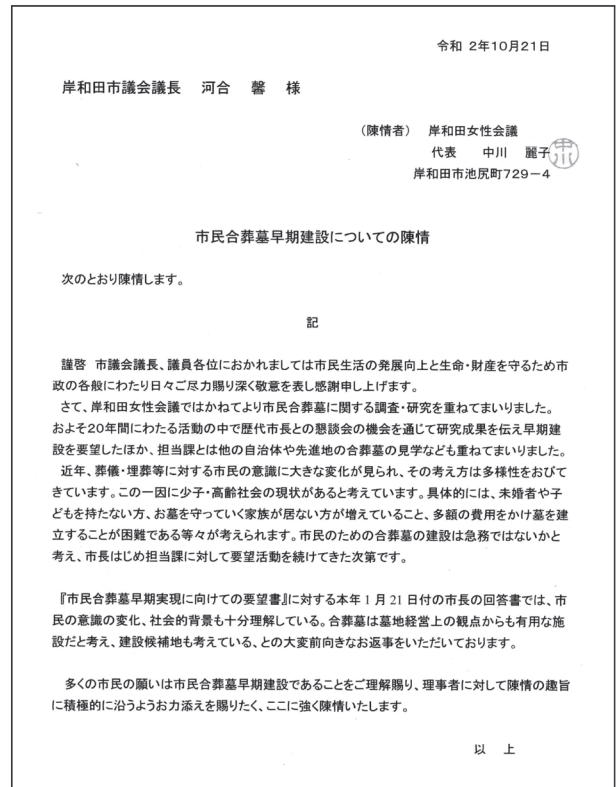
最近、私たちの周りでも外国人労働者をよく見かける。政府が日本の人口減少、特に少子高齢化による生産年齢人口（15歳～64歳）の減少による人手不足を、外国人労働者の力に頼ろうとしているのだが、医療の面だけを見ても、受け入れる際にこんなにも問題があることがよく分かった。

(馬場 由美子)

ます。

毎年のように行っている「市議会議員との勉強会」で理解していただくために話し合ってきました。その中で共感してもらえた議員から一般質問して頂きました。

昨年、永野市長と懇談し「合葬墓の早期実現」について理解を得ましたが、さらなる市議会へのはたらきかけの必要を感じ市議会議長宛てにそのための『陳情書』を提出しました。



安福寺見学 10月27日(火)

昨年完成した相川町安福寺の永代供養合葬墓を見学に行きました。これからは一軒毎に墓を持つことは難しい時代で、宗派にこだわらず誰でも参加できる（ともに創る）お墓との思いからの建立だそうです。大人が立って入れる「石室」の棚にはすでに納骨がされており、一定期間が過ぎれば底の石蓋を開けて土に帰るようになっていました。合葬墓の上の五輪塔の「地」「水」「火」「風」



「空」の意味を教えてください、前面に彫られた良寛さんの句「ちるさくら 残る桜も ちるさくら」などに送られて帰路に着きました。

檀家さん以外の納骨希望も多いようで「市民合葬墓」の早期実現の必要性を痛感しました。

(柳澤 早苗)

改めて思うこと

西田 幸子

今回、長らく広報編集委員会（以下、広報）に関わっていたので原稿依頼をいただきました。「長らく」が妙に気になり、何が長らく私を広報に留まらせたのか。まずは考えてみました。

ひとつには、広報には依頼した原稿によって女性会議の情報が集まってきます。活動目標に則ってその年度はどこに力点を置いているのか。各部会はどんな活動を展開しているのかなど、広く女性会議の活動を把握できること。今一つは、いただいた原稿が依頼した内容になっているか、書き手の文章を尊重しつつも、伝えたいことが読み手に十分伝わるために手直しをしてもらう必要があるのか否かなど、一つひとつの原稿を深く読み込み、広報委員が感想や意見を述べ合う、この作業が私にとっては結構楽しかったのです。広報は集中的に集りその回数も多く忙しかったけれど苦にはなりませんでした。

次に、記憶を手繰り寄せ扱った記事を思い出してみました。岸和田におけるパイオニア的な人を紹介する「この人にインタビュー」の取材は印象に残っています。その中でも小学校校長の西山光子さん、市民病院看護部長の渡辺五十美さん、弁護士の出白尚美さん、葛城町町会長の東山千恵さん、幼稚園教諭の吉沢慎也さん、消防士の小村由希子さん、市民病院看護師の川上裕弘さん、この方たちは、当時男性社会あるいは女性社会と言われる分野で唯一の存在でした。今は小学校や中学校において女性校長は増え、男性看護師も増えましたが他の分野ではどうなのでしょう。気になるところです。

「子どもの権利」を特集したこともありました。その頃、

女性会議広報100号に寄せて

野 久寿喜

女性会議に入会して早や25年近くになると思います。入会后5年目頃から世話人会にも参加させていただきましたが、紅1点でなく黒1点の状況で、会議の進め方がなかなかなじみなく、話し合いが長く、結論に到達するまでの審議が大変時間のかかったことを強烈に覚えております。

部会として、サロン・ドゥ・GOMI部会、福祉部会、広報部会（現在は事務局に属する広報編集委員会）などに関わりました。

サロン・ドゥ・GOMI部会は、環境問題が社会的に取り上げられ、特に岸貝清掃組合で岸和田市海岸部に新焼却炉の建設問題が大きな争点となった時でした。ごみ減量を進める中で、巨大焼却炉の建設は時代にそぐわない事業として、行政に意見具申してまいりましたが、スタートした事業は行政としては止められず、一部焼却炉の縮小という結果で進みました。

福祉部会は2000年から介護保険制度がスタートし、女性会議として介護と福祉の仕組みについて大いに学ぶ機会でありました。当初は、行政自身介護制度と地域のニーズをどのようにマッチさせていき、制度の有効性に

調布市に住む私の長女が双子を出産し、調布市の手厚い支援を利用しながら4人の子育てをしていたことから、長女宅に行った折を利用して、調布市の子育て支援センターや児童館を取材し記事を書いたことがありました。その双子も高校生になりましたが、未だ岸和田市の子育て支援が調布市には遠く及んでいないのが残念です。

今も部会員への報告、意見書や要望書、講師依頼、広報への原稿など、文章を書くことが多い立場にあって、何とかそれらをこなしていけるのも広報に在籍していた経験があってこそではないかと、今回の原稿依頼をいただいて改めて感じています。

広報紙100号記念特集



B5版
(No.1~No.16)

いて模索する時期でした。市民の期待と現実の予算のギャップを感じつつ、何度も制度の見直しを行いながら、現在に至っています。

広報部会については、完成するまでの校正や文字表現のチェックが大変厳しく、レベルの高さを大いに感じた部会でした。私なりの知り得た行政内部のことも記事に入れたくて、新しいコーナー「ちょっとお耳を」を提案させていただき、何回か投稿させていただいたことが、厳しい広報部会の中で楽しいひと時だったと感じられました。

今は福祉部会に所属し、自分自身のライフワークとして岸和田市の福祉行政、福祉施設の現状についてメンバーと一緒に取り組んでいます。市議会議員として10年間(46歳~56歳)、岸和田市の行政の仕組みやまちづくりの手法を学ばせていただいた経験を、今後の女性会議の活動の中で皆様と一緒に活かしていきたいと思っております。今後ともよろしく願いたします。

100号記念号おめでとうございます

中塚 鞠子

皆さんよく頑張ってきたんだなー、と感無量です。

広報紙「女性かいぎ」は女性会議の「顔」です。やってきた行事の報告だけではなく、会員さんにさまざま情報も伝えなくてはなりません。そして、みんなで考えた

ことは特集を組んで集中して取り組む。

さらに、これからの未来への希望も共有する大事な仕事

でもあります。外部

に向けても、女性

会議とは

どんなこ



A4版
(No.17~No.20) No.21~現在の様式

ファッションショー大成功

—お針子サロン—

かしましフェスティバル第2部のファッションショーでは、初めは嫌がっていたモデルも、まわりの拍手と雰囲気でも乗りに乗って、とても楽しいショーになりました。これがきっかけで、



新しいメンバーが増え、28人になりました。女性会議の主旨や活動を話し、入会してもらいました。サロンでは、アイデアを出し合いながら、古い着物を甦らせる喜びと、新しい仲間と創作活動ができる楽しさで、今沸立っています。3月には草木染の講習会をし、シミのついた裏地や派手で着れなかった布が美しく染め上がり、この布を使った作品づくりが又、楽しみです。子育てや家事から解放され、自

分の生活を見つめられる余裕ができた時、淋しい老後ではなく、生き生きと心豊かな老後が迎えられる。そんな生き方と、仲間づくりをしたい。それが女性会議の活動の目指す所でもあると思います。これからは女性問題にももっと関心を持ち、本音で語り合え共に輝ける、そんな活動にしていきたいと願っています。(山本裕子)



(No.29 1997/3/25)



子ども食堂 『いいねぎ一たん』

尾崎 敏子

『いいねぎ一たん』は、早いもので、城北地区公民館で開催して、今年の12月で3周年を迎えます。3年前のある日、衝撃的な事実を中学校の校長より聞かされました。①何らかの形で支援を受けている生徒が、全校生徒の5割を占める。②中学校給食が始まり、給食を目的に登校する生徒が増え、不登校の生徒が減少した。③長期休暇明けには、げっそり痩せてしまう生徒がいる。つまり、子ども食堂立ち上げの相談でした。私は、言葉を失いました。「子ども食堂」に関心がないわけではないですが、「一体私に何が出来るの？」とりあえず、現状を皆に伝える！そこからのスタートだと思いました。

城北地区福祉委員会当日、校長の話を聞いて皆の目が点になりました。そして新たに実行委員会を立ち上げる運びとなりました。数日後、有志に声掛けをし、子ども食堂の立ち上げにあたり、いろいろ議論しました。沢山の意見が飛び交いましたが、理由はどうであれ食べられない子どもがいる限り子ども食堂は必要であるという結論に達しました。その後賛同してもらえるメンバーで子ども食堂立ち上げに向けて何度も協議しました。

しかしながら、公民館使用許可がありません。中学校の校長は、中学校を使用することを提案してくれましたが、私の中では、子どもたちが気軽に出入りできる公民館でなければ無理でした。館長も当時の生涯学習課に掛け合ってくれましたが、「地区公民館は福祉活動の場ではない」と言われ、突き返されました。最終、福祉委員会の活動として立ち上げることで、渋々許可を頂きました。

このチャンスを逃がしては立ち上げることは出来な



い!! 来年館長が変われば、事態も変わる可能性があるのですが、校長に相談を受けてから、わずか3カ月でオープンすることになりました。メニューは、焼きそば、ご飯、スープ、手作りクッキーが定番となりました。そして、いつの間にか地域に根付き毎回100人以上の子ども達で賑わっています。



子ども食堂は、ただ単に食事の提供をするだけでなく、子どもたちと一緒に遊んだり、宿題を見てあげたり、悩みを聞いてあげるなど沢山の目的がありました実践できませんでした。しかし、いつ頃からか小学校の先生が食べに来て下さるようになり、私たちの代わりに話し相手になって下さり、今まで以上に子どもたちの笑顔を見ることが出来ました。

うれしいことに、私たちの子ども食堂には、子どもだけでなく私たちを応援して下さる大人の方々が、ご寄付のために300円払って毎回30名ほど食べに来て下さいます。これは貴重なる運営資金です。野菜のご寄付もあります。そして何より30名弱のスタッフの皆さんが、子どもたちの笑顔のために頑張ってくれています。

しかし、コロナの影響で、公民館が4月8日から閉館になりストップしてしまいました。開館してからも、三密になるので再開は出来ませんでした。しかし、有難いことに館長と生涯学習課のご配慮のもと6月より駐車場でカップ麺やレンジでチンするご飯のテイクアウトを自転車スルー方式で再開できました。220食が1時間程でなくなります。「ご飯がある！」って喜ぶ小学生、「助かります！」ってお礼を言ってくれる中学生の姿を見て、自分たちのやっていることは正しいと確信できました。11月からは焼きそばを公民館で調理しテイクアウトをする予定です。コロナ禍の中で今出来ることを精一杯やっていきたいと思っています。

※「き一たん」は北中学校区のマスコットキャラクター

つ・ぶ・や・き

健康で過ごしましょう！ 山本 一美

日本は、超高齢社会と呼ばれるほど、高齢者の人口が増加しています。2020年9月15日現在では、65歳以上の高齢者人口は3,617万人、総人口に占める割合（高齢化率）は28.7%です。また、日本の100歳以上は約8万人、最高齢は117歳の女性、平均寿命は87.45歳です。岸和田市では100歳以上が80人、最高齢は105歳、平均寿命は男性79.6歳女性86.2歳（2015年国勢調査）となっています。高齢化率は2020年で27.6%、2025年には28.6%となる見込みとなっています。

現在、岸和田市の介護保険料は年収80万円以上で非課税の方が年間74,200円でしたが、令和3年度から介護保険料がさらにアップすると推測されます。介護保険法では『第4条（国民の努力義務）加齢に伴って生ずる心身の変化を自覚して常に健康保持に努めるとともに、要介護状態になっても進んでリハビリ等により能力の維持向上に努める。』となっていることから、

いくつになっても自立した生活が出来るよう努力義務が課せられています。

現在岸和田市の65歳以上の人口は52,444人で、要介護認定者は10,991人で出現率は20.6%となっています。頼みの綱の介護保険認定審査もかなり厳しくなっているようです。

このような現状の中、私の人生の終末目標はいつでも元気に過ごし“ピンピンコロリ”です。この目標を達成するために、一日最低3,000歩とし、百歳体操週1回、はつらつ体操月1回、野外ではノルディックウォーク、パークゴルフに各月2回参加し、また、毎日浴室では9種目の運動を継続できるように努めています。また、女性会議や介護者家族の会、ほっとサロンの活動に参加し、みなさんと学び、笑い、語り合うことで刺激をもらっています。

“加齢を恐れず 華麗に生きてゆかんな ドレスに着替え ステージにたつ”私の好きな句です。今年、80歳になる私は残りの人生目標であるピンピンコロリに向かってこれからも頑張ります。

『岸和田市男女共同参画推進審議会』 に参加して

実川 孝子

上記の審議会の名前をご存じでしょうか。私も昨年度自分が当の審議会委員になるまでは、委員たちの意見・提言等がどの程度行政の策定した「案」に反映されるのか、ほとんど分かりませんでした。

一般に「審議会」とは「政策の立案、運営にあたり、専門知識を取り入れ、あるいは各種意見を反映させるため、行政機関に付置される諮問のための合議体」だそうで、これに対する批判として「委員の人選の偏り、行政機関の隠れ蓑的存在、答申しても行政機関が無視しがち」などが挙がっています。

岸和田市は男女共同参画社会の実現を目指して、1992年に「きしわだ女性プラン」を、2001年には「第2期きしわだ女性プラン」を、2011年にはその年4月に施行となる「岸和田市男女共同参画推進条例」に基づく計画として、「岸和田市男女共同参画推進計画—第3期きしわだ女性プラン—」を策定しました。このプラン策定のために「きしわだ女性プラン策定作業部会」と「きしわだ女性プラン検討委員会」が設置され、同検討委員会の後身に当たるのが現「岸和田市男女共同参画推進審議会」です。

通常、委員の出番は年に2回程度、審議会の事務局は人権・男女共同参画課にあり、事務局が、前年度に計画された男女共同参画に資する各部署の活動を報告し、これを受けて各委員が質問したり提言したりするのですが、今期は2021年度からの「第4期岸和田市男女共同参画推進計画」策定のため、審議会開催も5回予定されています。

審議の手順として、まずは事務局から「説明」「報告」があり、これに基づいて委員同士で議論をしていきます。委員には報酬が出ます。今期は男女4名ずつ、学識経験者枠から4名、公的団体枠から3名、公募枠より1名です。

1回目の7月16日には、前年度の実績報告の他「第4期岸和田市男女共同参画推進計画(案)の基本的な考え方が示されました。事務局より「2回目までに、市民意識調査(昨年11月実施)、庁内各課のヒアリングや関係団体のヒアリング、高校生や市民との意見交換会の結果を各委員に送り、書面で意見をいただく」と言われ、委員たちは回答書を提出しました。

8月提出分の主な課題は第4期の基本理念についてで、「案」として示されたものは「誰もが暮らしやすい社会にしていこうために みんなで(男女が)力を合わせるまちきしわだ」。ここで事務局より問いかけのあったのは「みんなで」がよいか「男女が」がよいか、というものでした。

私は「みんな」を削除して、「男女」のみにする方が望ましいこと。「みんな」の方が、「男女」の枠に入りきれない人を排除しなくてよいから、との意見もその通りだとは思いますが「事務局の考え方」の中に、「性的マイノリテ

ィへの理解については、基本課題の一つとして位置づけを考えている」とあるので、ぜひそうしていただきたいと回答しました。

またその理由として、現実には性による厳然とした格差・差別があり、この事実が曖昧なものにされてはいけなくて、まずは男女の格差解消を目的とした計画を前面に出してやってほしいこと等を書きました。

現在我が国のジェンダーギャップ指数は121位ですが、日頃あまり人の意識に上がらないようなところでも、女性が不利な立場に置かれています。性的犯罪における被害の成立要件、嫡出否認権がなぜ女性にはないのか、「法の下での平等」が謳われても、法自体のうちに「男女不平等」が埋め込まれているのでは、とうてい男女平等な社会とは言えません。

9月に事務局より「第4期岸和田市男女共同参画推進計画(案)」、その他が送付されてきました。そのときの「基本理念」と「基本目標」を記しておきます。

- ① 基本理念 誰もが暮らしやすい社会にしていこうために
男女共同参画を実現するまち きしわだ
- ② 基本目標 I 男女共同参画意識が定着したまちづくり
II 男女がともに働きやすいまちづくり
III 男女がともに活躍するまちづくり
IV 男女がともに安心して暮らせるまちづくり

計画案についての意見も同月提出しました。

10月1日に2回目の審議会が開催され、このとき事務局より提示された論議の対象は主に2点、「町会への男女共同参画に関する働きかけをどのような体制で進めていくか」と「女性の管理職登用のためにどのような取組が必要か」。

10月下旬に事務局より送られてきた修正後の計画案を見ると、前回の会議の内容を幾分かは反映していました。基本理念は「誰もが暮らしやすい社会にするために 男女共同参画を実現するまち きしわだ」。前回の「していこう」と異なって「する」の方がやる気のある表現でよいと思います。

前回審議会で議論した町会への男女共同参画の働きかけについては、男女共同参画促進のための情報提供や学習機会の提供を、「自治振興課」「人権・男女共同参画課」が中心となって実施することになりました。

ポジティブアクションの項では、女性管理職・審議会等の女性委員比率の向上等に関して、「数値だけに注目せず、女性が置かれている条件や背景を分析し、具体的な施策を展開する」そうです。

この第4期計画(案)の「基本目標1 男女共同参画意識が定着したまちづくり」の下に、同じ大きさに描かれた男女と小さな子どものイラストがあります。これは「男女が同等の権利を有する」のを表現しているようで気に入りました。

3回目の審議会は11月5日、4回目は12月14日に、5回目は2月18日の予定で、これで今期の審議会は終了します。

拡大VOICE

真の男女平等な社会は…!?

中川 麗子

「今から100年以上前、ウィルソン米大統領の就任を翌日に控えた首都ワシントンで、女性参政権を求めた大規模なパレードがあった。そこに黒人女性の参加を認めるかどうかを巡って論争が起きた。結局、パレードは黒人女性も参加して行われ、大きな反響を呼んだ。白人女性の間には、アフリカ系アメリカ人に焦点が当たると、女性の問題がかすむという懸念もあった。人種間の対立など様々な問題を抱えながらも運動は実を結び、パレードから7年後の1920年、女性参政権を認める憲法修正19条が発効した。ちなみに日本で女性参政権が実現したのは45年の太平洋戦争終結後だ。8月26日は、米国の女性参政権獲得から100年。その年にカマラ・ハリス上院議員が黒人女性初の米副大統領候補に選ばれたのは、まさに歴史的といえる。世界経済フォーラムは昨年末の報告書で、世界で男女格差が解消されるには、99.5年かかると予測した。ここまですが100年近く？そんなに時間をかけていいはずがない」（毎日新聞2020/8/25「余録」より抜粋）

ついに米国で初めての女性の副大統領が誕生。カマラ・ハリス上院議員は「ガラスの天井」を一つ打ち破り、4年後の有力な大統領後継候補となるでしょう。彼女は勝利演説で「自分は最初的女性副大統領になるが、私が最後ではありません。これを見つめている全ての小さい女の子が、この国は可能性の国だと理解するからです」と述べました。バイデン候補は勝利宣言で「分断ではなく結束を目指す大統領になる。アメリカを再び尊敬される国に戻す」と表明しました。果たして4年後の米国は…？

そして、わが国では9月16日に菅内閣が発足しました。「行政の縦割り、既得権益、あしき前例主義を打ち破って…」との決意を述べてましたが、内閣の顔ぶれを見ると、女性はたった2人と新鮮味がなくながっかりしたのが正直な気持ちです。安倍政権の時、女性活躍推進法が制定され、社会のあらゆる分野において、2020年までに指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%程度とする目標の『202030』は未達成の現状です。世界経済フォーラムが公表した「ジェンダー・ギャップ指数2020」で日本は153カ国中121位でした。未だに実現しない選択制夫婦別姓、LGBTについて政治家の差別発言など、日本は真の男女平等な社会になるのにあと何年かかるのでしょうか？

あゆみ (8/26~12/20)

| | | | |
|---------------------|-------|----------------------|-------|
| ・役員会 | 4回 | ・町を美しくする市民運動推進協議会表彰式 | 11/14 |
| ・代表・事務局会議 | 3回 | ・人権協会なるほど!人権セミナー | 11/20 |
| ・女性学サークル | 4回 | ・人権を考える市民の集い | 12/5 |
| ・福祉部会 | 4回 | | |
| ・ワーク部会 | 5回 | <委員会への出席> | |
| ・お針子サロン | 30回 | ・文化祭サポーター会議 | 2回 |
| ・サロン・ドゥ・GOMI | 4回 | ・町を美しくする市民運動推進協議会役員会 | 9/24 |
| ・悠遊・UBAステーション | 2回 | ・人権協会役員会 | 9/24 |
| ・広報編集委員会企画会議 | 9/10 | ・生涯学習推進本部委員会 | 2回 |
| ・広報編集委員会 | 9回 | ・介護保険事業運営等協議会 | 2回 |
| ・講座「ケアラーとして生きる女性たち」 | 10/24 | ・地域公共交通協議会 | 2回 |
| ・役員選考委員選出 | 11/17 | ・環境審議会 | 9/28 |
| ・廃棄物対策課との懇談会 | 11/25 | ・人権協会幹事会 | 9/30 |
| ・役員選考委員会 | 12/11 | ・生涯学習審議会 | 10/1 |
| ・かしまし座出前公演「みづくり学級」 | 12/13 | ・男女共同参画推進審議会 | 3回 |
| ・広報No.100発行 | 12/20 | ・平和を考える戦争展実行委員会 | 10/12 |
| <行事への参加> | | ・地域公共交通協議会個別ヒアリング | 10/16 |
| ・人権協会幹事等研修会 | 11/13 | ・子ども・子育て会議 | 10/30 |
| | | ・社会福祉協議会理事会 | 12/1 |

お知らせ

世界からみた 日本の人権

講師 藤田 早苗さん

とき 令和3年1月16日(土)
13:30~15:30

ところ 岸和田市立
男女共同参画センター

2020年度

かしましフェスティバル 中止

編集後記 ~100号記念紙面いかがでしたか~

創刊号表紙は切り絵と題字で手づくり感、満載ですね。山本裕子さんの原稿(1997年)を掲載しました。かつて編集に関わってこられた3人の方の想いが、私たちにパワーを与えてくださったように感じます。どうぞ良いお年をお迎えください!

(貝塚・川本・実川・竹末・中川・宮路・山中)

会費受付中

個人会員…1000円

団体会員…2000円

*問合せ 080-4984-5226